

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成28年12月22日

協議会名:三條市地域公共交通協議会

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
越後交通株式会社	福沢線 (福沢～長沢駅跡)	三條市内の高等学校に通学する見込みの下田中学校卒業生に対し、利用時間、方法などを記載したチラシを配布し、周知を図った(H28.3)。また、沿線地域住民のニーズを把握するためのアンケート調査を実施し、結果の分析を行っている。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標に掲げた日平均利用者数5人／日に対し、平成27年10月～平成28年9月までの実績は3.2人／日であり、前年度の実績2.4人／日を上回ったものの、目標を下回っている。 目標未達成の原因として、対象地域の生徒数にほぼ変化がないため、自家用車送迎による影響と考える。 なお、前年比利用増の原因については、周知による効果と考える。	利用促進に向け、下田中学校卒業生に対し、利用時間、方法などを記載したチラシを配布し、周知等を行う。また、沿線地域住民アンケート調査結果の分析を行い、検証する。
	高校生通学ライナーバス (東三條駅～県立工業高等学校)	三條市内の高等学校に通学する見込みの下田、大崎中学校卒業生に対し、利用時間、方法などを記載したチラシを配布し、周知を図った(H28.3)。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標に掲げた日平均利用者数30人／日に対し、平成27年10月～平成28年9月までの実績は24.3人／日であり、前年度の実績20.7人／日を上回ったものの、目標を下回っている。 目標未達成の原因として、対象地域の生徒数にほぼ変化がないため、自家用車送迎による影響と考える。 なお、前年比利用増の原因については、周知による効果と考える。	利用促進に向け、下田、大崎中学校卒業生に対し、利用時間、方法などを記載したチラシを配布し、周知等を行う。
	市内循環バス南コース (市内)	平成29年度に、三條市地域公共交通総合連携計画の計画期間が終了するため、新たな交通計画を作成する中で、他のルートも含めた必要な見直しを検討する。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標に掲げた日平均利用者数100人／日に対し、平成27年10月～平成28年9月までの実績は81.3人／日であり、前年度の実績76.9人／日を上回ったものの、目標を下回っている。 目標未達成の原因として、周知不足による市民の認知の低さが影響していると思われる。 なお、前年比利用増の原因については、平成26年4月に行った路線変更が定着してきたものと考えられる。	引き続き、周知等により利用の促進を図るとともに、新たな交通計画を作成する中で、他のルートも含めた必要な見直しを検討する。
	市内循環バス北コース (市内)		A 計画どおり事業は適切に実施された。		
	市内循環バス嵐南コース (市内)		A 計画どおり事業は適切に実施された。		
市内循環バス嵐北コース (市内)	A 計画どおり事業は適切に実施された。				
株式会社エス・タクシー	三條市デマンド交通 (三條市内)	複数乗車率向上・利用促進に向けた、新たな取組として、三條市デマンド交通「おでかけバス」社会実験を実施している。また、利用者アンケートを実施(H27.10)し、利用者の属性や満足度等を調査した。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 目標に掲げた日平均利用者数350人／日に対し、平成27年10月～平成28年9月までの実績は292.7人／日であり、前年度の実績313.2人／日と共に、目標も下回っている。 目標未達成の原因として、平成26年1月の利用料金見直し(値上げ)による影響が続いているものと考えられる。 なお、前年比利用減の原因についても、同様の理由によるものと思われる。	複数乗車率向上・利用促進に向け実施している三條市デマンド交通「おでかけバス」社会実験を完了する。そしてその結果を踏まえ、「おでかけバス」を全市民対象の本格運行として実施することを検討する。利用者アンケートを実施し、結果の分析を行い、利用促進への検討を行う。
三條タクシー株式会社			A 計画どおり事業は適切に実施された。		
中越交通株式会社			A 計画どおり事業は適切に実施された。		
日の丸観光タクシー株式会社			A 計画どおり事業は適切に実施された。		